

## 第 4 回 ライフサイエンスビジネス MOT 講師略歴

2015 年 9 月 5 日 (土)

Director, External Science &amp; Partnering, Sanofi Global R&amp;D

能見 貴人



## 【タイトル】

## リーダーシップと組織パフォーマンス

## 【概要】

今日、あらゆる局面でリーダーシップの重要性が唱えられているが、一方でリーダーシップの本質とは何かという問いに明確に答えられる人は少ない。多くの場合リーダーシップとマネジメントが混同され、組織でのリーダーシップ開発が間違った方向に進められているケースも少なくない。本講では、リーダーシップに関する様々な疑問に答えつつ、リーダーシップの本質を定義し、リーダーとして心に留めておくべき要素を解説する。

## 【略歴】

- ◆ Director, External Science & Partnering, Sanofi Global R&D (2014~現在)
- ◆ 製薬研究開発&事業開発 コンサルタント (2007~2014)
- ◆ リーダーシップ開発 コンサルタント (2007~2014)
- ◆ 幼児の創造性開発のための教室 主宰 (2008~2014)
- ◆ GSK 筑波研究所 所長 (2002~2007)
- ◆ GSK 筑波研究所 生物科学研究部 部長 (1999~2007)
- ◆ ノバルティス 移植研究領域 マネジャー (1996~1999)
- ◆ 岡山大学工学部生物応用工学科 助教授 (1990~1996)
- ◆ 大阪大学産業科学研究所 助手 (1986~1990)
- ◆ Roche 分子生物学研究所 ポスドク (1989~1990)
- ◆ 東京大学大学院薬学研究科 修了 (1986) 薬学博士
- ◆ 岡山大学薬学部 卒業 (1981)

## 第 4 回 ライフサイエンスビジネス MOT 講師略歴

2015 年 9 月 5 日 (土)

塩野義製薬株式会社

シニアフェロー

坂田 恒昭

【タイトル】

## 創薬イノベーション

【概要】

製薬業界の最近の研究開発動向、およびその技術動向、それを通じてバイオベンチャーや研究機関に望むことについてお話しいたします。

【略歴】

- 1977 年(昭和 52 年) 大阪大学・理学部・生物学科卒業  
1979 年(昭和 54 年) 大阪大学大学院・理学研究科・生理学専攻修了 (理学修士)  
1990 年(平成 2 年) 医学博士 (東北大学・医学部・生理学専攻)
- 1979 年(昭和 54 年) 塩野義製薬株式会社入社  
現在 塩野義製薬株式会社・Global Innovation Office・シニアフェロー
- 1985 年(昭和 60 年) ~1987 年(昭和 62 年)  
京都大学・ウイルス研究所・細胞ウイルス部門 研究員
- 1990 年(平成 2 年) ~1991 年(平成 3 年)  
米国カリフォルニア大学・ロスアンゼルス校 (UCLA) ・外科学・泌尿器学教室・  
客員研究員
- 1995 年(平成 7 年) ~1997 年(平成 9 年)  
(株) ディナベック研究所・第一研究室・室長
- 2002 年(平成 14 年) ~2011 年(平成 23 年)  
大阪大学サイバーメディアセンター・特任教授
- 2009 年(平成 21 年) ~現在 武庫川女子大学薬学部・非常勤講師  
2011 年(平成 23 年) ~現在 大阪大学サイバーメディアセンター・招聘教授  
2011 年(平成 23 年) ~現在 大阪大学大学院基礎工学研究科・特任教授  
2014 年(平成 26 年) 7 月~現在 徳島大学産学官連携推進部・客員教授

## 第4回 ライフサイエンスビジネス MOT 講師略歴

2015年9月26日 10月17日 11月28日 2月6日(土)

神戸大学連携創造本部・研究員

祇園 景子



## 【タイトル】

## デザイン思考を用いたワークショップ

## 【概要】

一言で“デザイン”といっても、服飾デザイン、建築デザイン、グラフィックデザインなど、様々な分野で使われている言葉です。造形や図案、模様を考案することを指しますが、広義では“必ずしも解が一つではない課題に対して、様々な角度から実現可能な解を見つけ出ししていくこと”と言えます。米シリコンバレーのデザインコンサルタント会社 IDEO は、デザイナーが0(ゼロ)から1を作り出す際のマインドセットと思考について、デザイナーでない人たちも実践できるように手法を提案しました。それがデザイン思考と呼ばれ、イノベーションを創り出すアプローチとして注目されています。日本でも富士通やYahoo! JAPANなどがアイデアを生み出すためにデザイン思考を取り入れて実践しています。

第4回「ライフサイエンスビジネス MOT」では、デザイン思考に基づくワークショップを体験していただきます。淀川キリスト教病院の協力を得ながら、ヘルスケア分野におけるアイデア出しをします。多様な人たちと一緒に対話しながらアイデアを導き出す過程を楽しんでください。ワークショップの手法・手順は、基本的に慶應義塾大学システム・デザインマネジメント研究科が文部科学省からの委託で開発した「イノベーション対話ツール」に従っています。ツールの解説書など詳細は文部科学省のホームページ ([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/sangaku/1347910.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/1347910.htm)) からダウンロードできます。

## 【略歴】

神戸大学 連携創造本部 応用構造科学産学連携推進センター・研究員 (2013～現在)  
神戸大学 医学研究科・特命助教 (2012～2013)  
公益財団法人新産業創造研究機構 TLO ひょうご・産学連携コーディネーター (2011～2012)  
福山大学大学院工学研究科 博士(工学) 取得 (2011)  
サントリーホールディングス株式会社 R&D 企画部 植物科学研究所・研究員 (2008～2011)  
神戸大学 遺伝子実験センター・教育研究補佐員 (2004～2008)  
神戸理化学研究所 発生・再生総合科学研究センター・テクニカルスタッフ (2003～2004)  
金沢大学大学院自然科学研究科 中退 (2003)  
神戸大学大学院自然科学研究科 修了 (2002)  
神戸大学農学部・教務補佐員 (1999～2000)  
神戸大学農学部 卒業 (1999)

## 第 4 回 ライフサイエンスビジネス MOT 講師略歴

2015 年 9 月 26 日（土）

株式会社 シリコンバレーテック 代表取締役社長

日本ゲノム薬理学会 理事

マベリックスクapital投資銀行 アドバイザー

橋本 康弘



【タイトル】

## 知識経済を生み出す米国シリコンバレーのしくみ

【概要】

米国のテクノロジーやヘルスケア産業は、2014 年も活況であった。とくにシリコンバレーには資金が潤沢に流入し、新規技術や事業の加速的進展が見られている。講義では米国シリコンバレーが世界の他の地域を卓越して、イノベーション創出のメッカとなった背景を紹介し、この地域に知識経済が集約し成功の好循環を生み出しているシリコンバレーの仕組みを考察する。

【略歴】

- 1983 年 大阪大学医学部卒業
- 1983 年 米ハーバード大学医学部。研究員
- 1986 年 米ペンシルバニア大学医学病理学部助教授、准教授。
- 1993 年 日本シンテックス株式会社（現：中外製薬株式会社）免疫研究所長。
- 1997 年 日本グラクソ株式会社筑波研究所の分子生物研究部門および遺伝子部門部長。
- 2000 年 メディビック（現・メディックグループ）設立。代表取締役社長。
- 2003 年 メディックグループ 東京証券取引所マザーズ上場。
- 2004 年 「経済産業大臣賞（起業家部門）」受賞。
- 2004 年 「2004 年デロイト トウシュ トーマツ 日本テクノロジーFast50」第 1 位受賞。
- 2005 年 ストランドライフサイエンス社（インド：バンガロール）取締役（2013 年まで）
- 2013 年 株式会社メディックグループ 及び グループ関連会社代表取締役社長 退任
- 2014 年 株式会社シリコンバレーテック（日本：神戸）創業代表取締役社長
- 2014 年 日本ゲノム薬理学会 理事
- 2015 年 マベリックスクapital投資銀行（米国：シリコンバレー）アドバイザー

## 第 4 回 ライフサイエンスビジネス MOT 講師略歴

2015 年 10 月 17 日（土）

淀川キリスト教病院 事業統括本部 企画課 主任課長 兼 局長付主任課長

よどきり医療と介護のまちづくり株式会社 まちのイノベーション事業部 部長

神戸大学 連携創造本部 客員教授

健康科学ビジネス推進機構 事務局メンバー

**卯津羅 泰生**

---

### 【タイトル】

**健康・医療産業と周辺産業への参入ギャップの現状と今後のあり方**

### 【概要】

成長産業の 1 つとされている健康・医療産業分野の置かれている現状、その課題や方向性について最新の動向を踏まえながら説明し、ディスカッションします。

また、神戸や大阪等の置かれている現状、そして、なぜイノベーションが起こりにくいのか等についても深堀していきたいと思います。

### 【略歴】

大学卒業後、情報処理会社でオンラインシステム設計等に従事後、地方議員秘書等を経て、1994 年より以後、民間シンクタンク、市場調査会社等において、一貫してメディカル・ヘルスケア分野における技術調査、マーケティングリサーチ、新規事業開発、ビジネスアライアンス支援、各種コンサルティング活動に従事。

また、大学発ベンチャー、産学連携・医工連携、中小企業支援等の視点等を重視したイノベーション支援コンサルティングも展開。ヘルスケア MOT 講座の開発等にも従事。2011 年 12 月より現職。病院における新規事業部門としてのスタンスから、医療機関発のヘルスケア新事業の創出に取り組んでいる。

また、2015 年 4 月には、よどきり医療と介護のまちづくり株式会社の設立にもかかわり、現在、まちのイノベーション事業部長も兼務。

## 第 4 回 ライフサイエンスビジネス MOT 講師略歴

2015 年 11 月 7 日 (土)

**Food Valley NL**

**Anne Mensink**

---

**【タイトル】**

Food Valley NL – where food ideas grow  
- Developments in the Nutrition and Health domain -

**【略歴】**

**Work Experience**

- At present: Director International Relations & Projects  
Senior Scientific Officer  
Food Valley organization
- 2007: Business consultant  
National Institute for Public Health and the Environment (RIVM) -  
Centre for Infectious Disease Control  
- Policy, Management and Advice Unit
- 2004-2007: Director Laboratory for Zoonoses and Environmental Microbiology  
National Institute for Public Health and the Environment (RIVM)  
- Centre for Infectious Disease Control
- 1997 -2003: Director Gastrointestinal Biology and Deputy to the General Manager (1999 ~)  
Numico Research B.V. (now part of Danone).
- 1991 – 1996: PhD student  
Wageningen University and Research Centre – Department of Toxicology

*Thesis: 'Modulation of Gap Junctional Intercellular Communication between Human Smooth Muscle Cells by Leukocyte-derived Growth Factors and Cytokines in relation to Atherogenesis', 1997*

**Education**

- 1991 – 1995 Various modules of the Postgraduate Programme Toxicology  
(various universities, the Netherlands)
- 1991 Experimental Oncology (Netherlands Cancer Institute, Amsterdam)
- 1985-1991 Molecular Sciences, with distinction (Wageningen University)
- 1979 -1985 Pre-university education, with distinction (Edith Stein College)

## 第 4 回 ライフサイエンスビジネス MOT 講師略歴

2015 年 11 月 7 日 (土)

合同会社 SARR

代表執行社員

松田 一敬

【タイトル】

## バイオベンチャーの目論見書解説

【概要】

バイオベンチャーの目論見書を読み、ビジネスモデルと知財戦略を理解する

【略歴】

慶応大学卒業後、山一証券(株)証券引受部を経て、同社ロンドン現地法人にて中東、アフリカ、東欧諸国等を担当。国内初の地域密着型 VC である北海道 VC 設立。2000 年 6 月に札幌 Biz Cafe を設立、サッポロバレーの IT ベンチャーを支援。2000 年 9 月、国立大学発ベンチャー第 1 号の設立に関与する等、大学発ベンチャー支援の国内の草分け。製薬企業向けマイルストーン契約の締結等、知財の事業化の実績を積む。2011 年 4 月、京都に合同会社 SARR 設立。起業家教育、NEDO の科学技術商業化プログラムの企画・運営等、ハイテクスタートアップの支援等を行っている。慶応(経)卒、仏 INSEAD にて MBA、北海道大学にて医学博士取得。文部科学省科学技術・学術審議会委員等公職多数。

専門分野：起業家支援、科学技術の商業化、ベンチャーファイナンス、バイオ産業

[www.sarr-llc.com](http://www.sarr-llc.com)

## 第 4 回 ライフサイエンスビジネス MOT 講師略歴

2015 年 11 月 28 日 (土)

GE ヘルスケア・ジャパン株式会社 ライフサイエンス統轄本部

サイエンティフィックサポート営業部 課長

**梶原 大介**



【タイトル】

## 世界の医療技術/医薬品開発の課題と GE Healthcare の取り組み

【概要】

医療の高度化、個別化が求められる中、医薬品もそれに適応した開発が求められている。GE Healthcare は医薬品開発における研究・製造用機器を含めた様々なソリューションを提供している。今回は、特にバイオ医薬品の研究開発に関わる技術を中心に、GE Healthcare の取り組みをお話する。合わせて、医療技術開発に関わる取り組みに関してもお話する。

【略歴】

- ◆ バイオ医薬品の製造に関わる機器、試薬等の技術的なサポート業務に従事する傍ら、大阪大学リーディングプログラムの外部担当教員を担当し、ライフサイエンスにおける人材育成にも注力
- ◆ 2000 年、岡山大学大学院生体機能応用工学専攻修士課程を修了後、アマシャム・ファルマシア・バイオテック株式会社に入社
- ◆ 2006 年、岡山大学大学院自然科学研究科にて博士（工学）の学位を取得後、GE ヘルスケア バイオサイエンス株式会社に入社
- ◆ プロテオミクス、細胞イメージング、分子間相互作用技術の学術サポート及び販売戦略の立案業務を経て 2013 年より現職

## 第 4 回 ライフサイエンスビジネス MOT 講師略歴

2015 年 11 月 28 日 (土)

日本及び米国ニューヨーク州弁護士

西村あさひ法律事務所所属 (大阪事務所共同代表、法人社員)

## 井垣 太介

## 【タイトル】

## 企業価値向上のための法務経営戦略

～最適な EXIT を実現するために～

## 【概要】

企業そのものは永続的な事業の発展を目指す場合でも、一経営者、一オーナーには必ず EXIT が待っています。シーズを開発しライセンスアウトする、会社の価値を高めて売却する、IPO によって更に多額の資金を集めて創業者としては株式を売却して資金化するなど、方法は様々で、資金化の後にはその資金を利用して更に次の事業に投資するという夢もあります。しかし、EXIT の際には必ず事業の価値を裏付ける権利、契約関係、取引関係が評価されるとともに、事業の価値を毀損するリスクの有無も厳しく判定されます。価値もリスクも一夜にして作られるものではなく、実は起業直後からの成績表が全て将来の EXIT の成否につながるのです。本講座では、EXIT 時に後悔しないための法務戦略と経営戦略を具体例と共に解説させていただきます。

## 【略歴】

1998 年 東京大学法学部卒  
2001 年 弁護士登録 (54 期)  
2006 年 米国留学、ノースウェスタン大学ロースクール卒業 (LLM)  
2008 年 米国レイサム&ワトキンス法律事務所ニューヨークオフィス勤務  
2009 年 北浜法律事務所のパートナー就任 (渉外部門、M&A 部門パートナー)  
2013 年 西村あさひ法律事務所に移籍

現在は、国際取引全般、企業法務全般、紛争案件全般を扱い、特に、企業間のアライアンス案件 (M&A、ライセンス、資本業務提携等) には豊富な実績を有する。

## 役職・学会等

2015 年 1 月～ 日本仲裁人協会 関西支部事務局次長  
2012 年 4 月～現在 日本緩和医療学会 顧問  
2010 年 11 月～現在 社団法人医療国際化推進機構 理事  
2009 年 4 月～現在 大阪大学大学院医学系研究科 臨床試験利益相反委員会委員

## 第 4 回 ライフサイエンスビジネス MOT 講師略歴

2015 年 12 月 19 日 (土)

日本医療政策機構 エグゼクティブディレクター

(内閣官房 健康・医療戦略室 戦略推進補佐官)

宮田 俊男

【タイトル】

## 医療分野の新産業創出

【概要】

社会保障費の急激な増加、世界で類を見ないスピードで突入する超高齢化社会、さらには人口減少など日本の社会保障制度は多くの課題を抱えている。一方で、世界的に新薬・新医療機器・再生医療・ヘルスケア IT 領域の競争は激化しており、社会保障制度を維持しつつ、イノベーションも同時に促進することが求められている。政府の医療制度改革、産官学連携によるオープンプラットフォーム構築、イノベーション論、健康経営、マイナンバー、ビッグデータ、国家戦略特区など最新的话题を紹介する。

【略歴】

東京都出身。1999 年早稲田大学理工学部機械工学科卒業、2003 年大阪大学医学部医学科卒業 (3 年次編入学)。外科医として大阪大学医学部附属病院等で手術、治験、臨床研究や再生医療等に従事した後、臨床現場の課題を行政的に解決するべく厚生労働省に入省し、現場を知る医系技官として税・社会保障の一体改革、臨床研究関連予算の設計、薬事法改正、再生医療新法の立案、先進医療制度改革、特定看護師の初期設計をはじめ数々の医療制度改革に関わる。東日本大震災時には第一陣で福島県に派遣され、復旧に尽力。その後、東北の医療機器開発支援の基金の創設を立案するなど復興政策にも関わった。

厚生省退官後は、2013 年 9 月より日本医療政策機構に参画し、現場と政策の谷を埋めるため、政策提言を企画・立案している。同年 11 月から、内閣官房健康・医療戦略室の戦略推進補佐官にも任命されている。その他、京都大学産官学連携本部客員教授、大阪大学産官学連携本部特任教授、東北大学大学院医学系研究科客員教授 (創生応用医学研究センター)、大阪大学大学院医学研究科招聘教授 (心臓血管外科学)、神奈川県顧問、川崎市参与 (国際戦略拠点形成アドバイザー)、横浜市立大学顧問、国立がん研究センター企画戦略局政策室長、三重大学臨床研究開発センター顧問、医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 専門委員、先端医療振興財団臨床研究情報センター顧問等を兼務。東京大学、九州大学、早稲田大学、慶応大学、山梨大学、青山社中等で社会保障学、イノベーション、リーダーシップ、レギュラトリーサイエンスの講義を行い、若手の教育にも尽力している。なお現在も外来診療や手術にも従事している。医薬品医療機器産業、地域包括ケアシステム、規制改革、臨床研究、再生医療、産官学連携など国内外で講演多数 (日本医学会総会、米国 IOM、ハーバード大学など)。深層ニュース、プライムニュースにも出演。

日経メディカル「医師こそ戦略思考を」

総合診療の G ノート「どうなる日本！？こうなる医療！！」連載中

著書 医師主導治験、企業治験、医療機器治験 改正 GCP 省令のポイント (じほう)、製薬企業クライシス (エルゼビア)

Twitter @ToshioMiyata

## 第 4 回 ライフサイエンスビジネス MOT 講師略歴

2015 年 12 月 19 日 (土)

有限責任監査法人 トーマツ

アドバイザリー開発部長 公認会計士

北地 達明

【タイトル】

## ライフサイエンスビジネスとファイナンス

【概要】

バイオベンチャーを中心にしたライフサイエンス業界でのファイナンスの特長についてお話します。この業界ではベンチャー領域はもっともベンチャーらしく、製薬においても同規模の他業界に比べて極めてユニークなファイナンス戦略を組みます。

また新しい取り組みにも次々チャレンジしているので、現在の業界の状況について大きく理解していただけるような内容で講義いたします。

【略歴】

1983 年	中央大学経済学部卒業
1985 年	会計士補取得、サンワ東京丸の内事務所 (現 有限責任監査法人トーマツ) 入所
1996 年	監査法人トーマツ (現 有限責任監査法人トーマツ) 社員 (パートナー) 就任
2003 年	同 代表社員就任 (現行制度では呼称はパートナーに統一)
2012 年	東北大学大学院工学研究科博士後期課程修了
2012 年	有限責任監査法人トーマツ アドバイザリー開発部長就任
2013 年	同 経営会議メンバー就任

専門領域:

中堅・ベンチャー企業領域に関わる以下の領域 (主として技術型ベンチャー) 株式公開、M&A 等コーポレート・ファイナンス、監査・調査、社内整備

著書:

「株式公開全ノウハウ」「ベンチャー企業の経営と支援」「ベンチャーマネジメントの変革」  
「日経文庫/M&A 入門」「ストックオプションの実務」「企業再編の税務」(以上日本経済新聞社)  
「店頭登録実務ハンドブック」「ベンチャー企業成功の方程式」「動き出した産学連携」(以上中央経済社)  
「よくわかる M&A」「よくわかる連結経営」「よく分かる株式公開」「会計がわかる事典」「M&A 実務の全て」  
(以上日本実業出版)

## 第 4 回 ライフサイエンスビジネス MOT 講師略歴

2016 年 1 月 16 日 (土)

山本特許法律事務所

弁理士

山本 秀策

【タイトル】

日本のとるべき知財戦略

【概要】

知財戦略の失敗が今日の日本の低迷の遠因です。企業経営者、企業内研究者、知財担当者はもとより大学人が深く心しなければならなかったはずのことです。それはどういうことなのか、どうすべきなのか、を考えます。

【略歴】

- 1966 年 大阪大学工学部醗酵工学科
- 1966 年 キッコーマン株式会社
- 1974 年 同社退社
- 1974 年 弁理士登録
- 1978 年 米国 Armstrong, Nikaido, Marmelstein & Kubovcik
- 1978 年 米国 The Catholic University of America Law School
- 1979 年 山本秀策特許事務所 開設
- 2003 年 山本秀策特許事務所 東京事務所 開設
- 2004 年 大阪大学 顧問弁理士 就任 今日に至る
- 2005 年 大阪大学 招聘教授 就任 今日に至る
- 2006 年 崇城大学 客員教授 就任 今日に至る
- 2007 年 山本秀策特許事務所 福岡事務所 開設
- 2009 年 東北大学大学院非常勤講師
- 2014 年 山本特許法律事務所に改名し、グランフロント大阪タワー C 17 階に移転

## 第 4 回 ライフサイエンスビジネス MOT 講師略歴

2016 年 1 月 16 日 (土)

大阪大学大学院医学系研究科

ロボティクス&デザイン看工融合共同研究講座 教授

山田 憲嗣

【タイトル】

医療系ロボティクス最新情報

【概要】

介護ロボットなど国策で普及活動を進めているが、ナカナカ導入に至っていない。現場のニーズと作り手のシーズがマッチしていないのが現状で、お互いのコミュニケーションが必要不可欠である。本講では、阪大で取り組んでいる事例を紹介し、現場と作り手の融合を図るキッカケを探る。

【略歴】

1998 年 大阪市立大学工学研究科 電気工学専攻修了 博士 (工学)  
1998 年 大阪科学技術センター 研究員  
2003 年 広島市立大学 情報科学部 助手  
2004 年 広島工業大学 工学部 講師  
2006 年 広島工業大学 工学部・情報学部 助教授  
2007 年 広島工業大学 工学部・情報学部 准教授  
2008 年 大阪大学臨床医工学融合研究教育センター 特任准教授  
2010 年 大阪大学大学院医学系研究科 特任准教授  
2012 年 同 特任教授 現在に至る

【専門領域】

医用工学 看護工学 電子計測 光計測 ロボティクスなどの研究に従事

## 第 4 回 ライフサイエンスビジネス MOT 講師略歴

2016 年 2 月 6 日 (土)

株式会社 創晶

代表取締役社長

**安達 宏昭**

【タイトル】

## バイオベンチャーの醍醐味と苦労話

【概要】

大阪大学発ベンチャー「株式会社創晶」を設立し、おかげさまで 10 周年を迎えました。異分野連携による技術開発から始まり、産学連携、企業同士の業務提携など、補完的な関係が構築できるパートナーと連携することで、新しい価値を創出してきました。当日は、その体験談をご紹介します。

【略歴】

- ◆ 大阪大学大学院工学研究科電気工学専攻修了、博士（工学）
- ◆ 日本ガイシ株式会社、大阪大学大学院工学研究科助手を経て、2005 年 7 月から現職（株式会社創晶 代表取締役社長）  
2013 年 4 月には子会社となる株式会社創晶應心、2014 年 5 月にはグループ経営の中核となる株式会社創晶大学を設立し、代表取締役社長に就任
- ◆ 現在、大阪大学大学院工学研究科の招聘准教授や社会福祉法人あおば福祉会の理事、柴又運輸株式会社の顧問などを兼任